

国立大学法人島根大学経営協議会（第138回）＜議事要録＞

日 時 令和6年1月11日（木）14:00～15:50

場 所 松江キャンパス本部棟5階 大会議室（対面及びオンライン）

出席者 服部学長，藤田理事，肥後理事，大谷理事，椎名理事，藤波理事，宮脇理事，上野理事，
上定委員，大西委員，久保田委員，高塩委員，谷口委員，津田委員，秦委員，福島委員，
三輪委員

欠席者 なし

オブザーバー 千家監事

議決事項1 第4期中期目標・中期計画の変更について

- 肥後理事から，第4期中期目標・中期計画の変更について説明があった。
- 学外委員から，インターンシップの新たな定義（タイプ1～4）に対応した学生数の内訳について質問があり，肥後理事から，第3期中期目標期間中にインターンシップに参加した学生数を根拠に考えており，短期インターンシップが中心になるとの回答があった。

同学外委員から，企業の実態を知るためにはある程度の期間が必要と考えるが，例えば1，2週間以上のインターンシップに参加した学生はどれくらいいたのかとの質問があり，肥後理事から，後ほど回答するとの発言があった。【※】

- 以上の質疑応答の後，原案通り議決された。

【※令和5年度実績（令和5年12月末時点）で，1週間以上のインターンシップ参加者は151名。1週間未満は210名。…後日報告】

議決事項2 医学部統合腎疾患制御研究・開発センター設置に伴う管理学則の一部改正について

- 椎名理事から，医学部統合腎疾患制御研究・開発センター設置に伴う管理学則の一部改正について説明があった。
- 学外委員から，先鋭的な取り組みとのことだが，全国で他に腎疾患について統合的に研究している大学はあるか，また，本センターが今後の医学部の強みになっていくのかとの質問があり，椎名理事から，国内では他に新潟大学のみであり，腎疾患に関係のある複数診療科の教員集団による先進的な研究・医療体制を構築し，本学医学部の先鋭的研究領域として強み・特色を打ち出す取組であるとの説明があった。
- 学外委員から，腎疾患制御は治療的対応なのか予防的対応なのか，また，設置・稼働はいつを予定しているのかとの質問があり，椎名理事から，予防医学から治療まですべてに対応すること，2月1日から施行予定であることについて回答があった。
- 学外委員から，教員ポストの規模について質問があり，椎名理事から，医学部の腎臓疾患に関連する診療科の専門医6名に加えて，新部門には新たに特任教授1名，特任助教2名を配置予定であるとの回答があった。

同学外委員から，特任教員が配置されるということは新部門は期限付きの設置となるのかとの質問があり，椎名理事から，3年間で一つの区切りとするが，実装につなげていくためには研究開発が重要であるため，成果を見ながら医学部附属病院や外部資金を原資として継続することを考えているとの回答があった。続けて学長から，3年間は国立大学改革・研究基盤強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）を原資とて運営し，その間に学部改革によって医学部で体制を整え，腎臓内科を中心とした研究分野・診療分野が本学医学部の強みになっていくことを想定しているとの説明があった。

- 以上の質疑応答の後，原案通り議決された。

協議事項 1 教学, 研究, 財務の IR データに基づいた経営状況に係る自己点検・評価結果について

- 肥後理事から, 教学, 研究, 財務の IR データに基づいた経営状況に係る自己点検・評価結果について説明があった。
- 学外委員から, 同規模総合大学と比較して退学率が高いとのことだが退学理由を把握しているのか, また, 県内企業等との受託研究・共同研究について「じげおこしプロジェクトの件数が少ない市町村の企業・自治体への研究シーズの情報提供等が求められる」とのことだが, 受託研究・共同研究とじげおこしプロジェクトとの間に直接的な関係性はあるのかとの質問があった。肥後理事から, 退学の原因別の人数の分析は行っているが, 他大学と理由を比較するという分析までは踏み込めていないとの回答があり, じげおこしプロジェクトの件数と受託研究・共同研究との直接的な関係性はないと思われるため記載を修正するとの発言があった。

同学外委員から, 入試の特別選抜の割合が高いことと退学率との間に因果関係はあるのかとの質問があり, 肥後理事から, 本学は特別選抜の割合を全体で4割に高めようとしており, 学生の入学後の動向についてもフォローしているが, 現在のところ特別選抜で入学した学生が学業成績の面で大きな差があるというような実態は見えていないとの回答があった。
- 学外委員から, 県内就職率は大きな伸びが実現できていないが, 本学は鳥取県西部における就職についても期待できるため, 本学が立地する地域の特殊性も考慮して色々な説明をしていくことが必要ではないかとの発言があった。肥後理事から, 県内就職者の中に鳥取県在住者がどのくらいいるのかといった就職率のデータも参考となるのでご意見を取り入れたい。県内就職を増やすためには1, 2年生のうちから県内の様々な場所や魅力を知る必要があるため, インターンシップに限定せず取組を考えたいとの発言があった。
- 学外委員から, 退学率が昨年度と比較して増えた要因は何か, また, 関連して, 気楽に悩みを相談できる環境が無いという学生の声があるとの説明が以前あったが, その後, 学生サポートの動きはあるのかとの質問があった。肥後理事から, 退学理由は大きく分けて「1. 進路変更, 勉学意欲喪失」「2. 経済的理由, 授業料未納」「3. 病気」の3つがあるが, 昨年と比べてどれも数人ずつ増えておりどれか一つが突出しているわけではない。大学として一番気を付けなければいけないのは1の理由で, 授業がつまらない, 授業を受けても意味がないと思われるよう教育改善が重要と考える。さらに, 理系学部では教員が自主的に補習授業に取り組むなど学習相談の場を設けているが, 教員が心配する学生がそこに来ないという報告を受けており課題になっている。学生相談体制をどのように作るかについては保健管理センターを中心に再検討しているところであるとの説明があった。同学外委員から, 志願者を増やすことと同様に入学した学生が勉強して卒業してもらうことも重要であり, 今後もサポートをお願いしたいとの発言があった。
- 学外委員から, 県内企業等との受託研究・共同研究で2022年度に法文学部と教育学部で松江市の金額が増えているが, どのような分野で増えているのか, また, 志願倍率が2倍を下回る学部について理由を分析しているのかとの質問があった。肥後理事から, 受託研究・共同研究については後ほど報告するとの発言があった【※※】。志願倍率については非常に大きな危機感を持っていること, 原因については受験生や保護者, 高校の教員に本学の学部の魅力が伝わっていないということなので心して取り組まなければならないと考えるとの説明があった。

【※※法文学部, 教育学部ともに中国地方整備局松江国道事務所からの受託研究により金額が増えている。受託研究内容は次の通り。

- ・宍道湖・中海圏域の8字ルート整備が地域経済に与える効果に関する研究(法文学部)
- ・自動運転サービスを活用した地域の公共交通やまちづくりのあり方に関する研究(教育学部) …後日報告】

同学外委員から, 就職率は人間科学部, 生物資源科学部の低下が特に気になるが分析はできているのか, また, 就職しない学生の進路はどうなっているのか, 生物資源科学部は本学が力を入れているエスチュアリー研究ともシナジーがあると考えますが魅力が伝わっていないのか, 或いは就職先が少ないことが影響しているのかとの質問があった。肥後理事から, 就職率はベンチマークとなる12大学平均よりも2ポイント

ト程度低く、かといって進学率が必ずしも高いわけではないこと、大学院の就職率も他大学よりも低い傾向にあり就職率に大きな課題を抱えていること、就職支援については各学部、研究科で現在実施している内容や不足している部分について自己分析を行っており3月までには分析結果が出ることから来年度はさらに深掘りした報告ができると考えていることについて説明があった。

- 学外委員から、医学部の特別入試の定員枠、及び他大学における実績について質問があり、肥後理事から、医学部全体の特別入試枠は59名（医学科44名、看護学科15名）【62名（医学科44名、看護学科18名）…後日確認のうえ修正】であり、医学部の特別入試は他大学でも多く実施されているとの回答があった。同学外委員から、入試は一般国民にとって一番の関心事であり適切に行っていただきたいとの発言があった。
- 学外委員から、志願倍率の低下について、入試種別の比重を変えるなど様々な対策が考えられるが、データ分析から対策に移すまでの期間はどれくらいなのか、また、特別選抜で入学した学生の学力をどのように評価しているのかとの質問があった。肥後理事から、入試の動向は3年見れば課題は分かるのでその段階で手を打った方が良いと考えるが、入試に主体的に関わっている学部との考え方の違いがあり改革には時間を要すること、特別選抜で入学した学生の学力についてはGPA等の分析を見る限り一般選抜の学生とほぼ差はないことについて回答があった。

同学外委員から、入試に関してリードタイムがかかるとその分対応が遅れることになるが、周知期間を置かなければならない改革もあればすぐに対策ができるものもあるのではないかと意見があり、肥後理事から、入試そのものの改革には時間が必要だが、入試広報についてはすぐに対策ができるため学部と協力して取り組んでいるとの説明があった。
- 学外委員から、入試区分別の退学率について、2020年度は特別選抜の学生が最も低いが、2022年度は一般選抜（前期）の学生よりも高くなっていることに関して、勉強意欲の高い学生を採るのが特別選抜制度であるべきで、上手く仕組み付けがなされているか検証のうえ次の入試に反映させるサイクルを回す必要があるのではないかと意見があった。肥後理事から、特別選抜の1期生が現在3年生であり、入学後の育成の成果が来年度に向けて現れることになるため、それを社会にどのように示すことができるのかがこの入試の命運を決めていく面があるため、しっかりとフォローしていきたいとの発言があった。
- 肥後理事から、本日いただいたご意見を参考に来年度のビジョンの実行計画の中に一定の形で反映させていく予定としており、3月に改めて提案したいとの発言があった。

報告事項1 「先端マテリアル研究開発協創機構」の設置に伴う管理学則の一部改正及び同機構規則の制定について

- 学長から、「先端マテリアル研究開発協創機構」の設置に伴う管理学則の一部改正及び同機構規則の制定について報告があった。

報告事項2 令和6年度医学部入学定員増員計画について

- 肥後理事から、令和6年度医学部入学定員増員計画について報告があった。

報告事項3 職員給与規程等の一部改正（人事院勧告対応）について

- 藤田理事から、職員給与規程等の一部改正（人事院勧告対応）について報告があった。

報告事項4 令和5年度前期（4～9月）資金運用報告について

- 藤波理事から、令和5年度前期（4～9月）資金運用報告について報告があった。

報告事項5 令和6年度運営費交付金等予定額の概要について

- 藤波理事から、令和6年度運営費交付金等予定額の概要について報告があった。
- 学外委員から、人事院勧告対応など根本的には運営費交付金を増やすべきと考えるため、そのための行動が必要ではないかとの発言があった。
学長から、各大学の学長は人事院勧告の引き上げや諸物価の高騰に危機感を持っており、国大協を中心として引き続き対応していきたいとの発言があった。

報告事項6 附属病院運営状況について

- 椎名理事から、附属病院運営状況について報告があった。

報告事項7 理事の担当業務における本学の強みと課題について

- 藤田理事から、理事の担当業務における本学の強みと課題について報告があった。